

ひとひとの情報紙 ビギン Begin

2022
第23号

はじめよう!



男だから、女だから…ではなく、性別に関わらず誰もが自分らしく生き生きと暮らせる男女共同参画社会を目指し、「ここから始めよう!」という気持ちを込めて、平成12年に情報紙はBegin(ビギン)と名付けられました。皆様により見やすく、より手にとって頂きやすい情報紙を目指し、今号よりフルカラー4ページになって、男女共同参画に関する情報をお届けいたします!

特集 アンコンシャス・バイアス

～それってあなたの無意識の思い込み?～



?

Q1

いきなりですが、クイズです。

入間市に住むある保育士には、さいたま市で教師をしている姉がいます。その姉には妹がいません。ふたりはどんな関係でしょう?

次の文章を正しい順番に並べ変えてください。理由も説明しましょう。

- A ある親子が交通事故にあった。
- B 病院に運ばれてきた患者を見て外科医が叫んだ。
- C 父親は即死だった。
- D 「息子!この子は私の息子!」

Q2



クイズの答えはお分かりになりましたか?何も疑問に感じずお答えになる方もいれば、あれ?と戸惑われる方もいらっしゃると思います。

考え方のヒントは「性別役割分担意識」です。

性別役割分担意識とは、文字通り、性別によって役割を分担・固定化して考える意識をいいます。もし先ほどの問題にピンとこなかった方は、「保育士=女性」という思い込みがありませんか?「ある職業=性別が限定される」とは限りません。『性別役割分担意識』という言葉を意識して問題をもう一度読んでみてください。

もう、わかりましたね?Q1の答えは「保育士が男性の姉弟」、Q2の答えは「A ↓C ↓B ↓D(外科医は母親)」となります。

今号では、この「性別役割分担意識」と自分では気付いていないその無意識

の思い込み

「アンコン

シャス・

バイアス」

について特集
します。



内閣府が令和3年8月に行った調査では、性別に関する役割などをめぐるアンコンシャス・バイアス（自分では気付いていない無意識の思い込み）について実に76%が「ある」と回答したことが分かっています。

悪意無く傷つけられたと感じたこと、なんだか少しモヤモヤすること、その原因のひとつに、アンコンシャス・バイアスがあるかもしれません。具体例を見てみましょう。



例1 転勤・単身赴任・業者さん=男性

転勤になった、と聞いてパツと男性を思い浮かべる方が多いようで、女性のわたしが転勤や単身赴任になったら「夫や子どもが可哀相」と言われました。でもそれぞれに家族のあり方があるはずですよ。

家で水道トラブルがあったとき、来てくれる業者さん=男性と思い浮かびませんか？最近水道業者・ガス業者等に女性も多く、特にひとり暮らしの女性宅に向かう際は女性社員が担当することで、より安心して利用してもらえるようサービスを行っている企業もあります。性別で職業を決めてしまうのはもったいないですよ。

例2 恋人=異性？

多くの人が異性愛を前提で話をされますが、そうとはかぎりません。恋人がいる、と言ったら「彼氏できたの？」「彼女紹介してよ」等、軽い気持ちで発した言葉に、傷つく人もいます。もしかしたらあなたにカミングアウト（=LGBTであると打ち明けること）しようとしていた機会を奪っているかもしれません。

息子がピンクのランドセルがいいと言いだした。素直にいいねって言ってあげられなくてモヤモヤ...



平日に父子で公園にいと「お母さんは？」と聞いてくる知らない人にモヤモヤ...

例3 家庭での食事作り=女性？

女性自身も意外とそう考えていませんか？仕事をして、帰宅して慌てて夕食準備をするのが当然...あれ？考えてみたら夫は在宅勤務だった！なんてことも。

「作ってくれたらいいのに！」ではなく、例えば献立を一緒に考える、買い出しに二人で行くことで、家にある食材を把握でき、できる方ができることをする、一緒にする。

そんな小さな一歩が「参画」へのスタートになるのではないのでしょうか。

PTAといえばママばかりなのに会長はいつもパパ。なんだかモヤモヤ...

50代・60代の男性は父親として管理職として、若い世代に影響力のある立場であることが多いため、この世代にアンコンシャス・バイアスへの気づきの機会を提供することであらゆる世代のアンコンシャス・バイアスの解消に近付くことが考えられます。



「男性は仕事をして家計を支えるべき」への肯定割合した。
男性50〜60代に性別役割意識が強い傾向がありました。

★性別役割意識の傾向

直接言われた経験よりも言動や態度から感じた経験の割合が高く、また、男性より女性の方が、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験があるとの回答割合が高くなりました。中でも50〜60代の女性で割合が高くなっています。

★役割や思い込みを決めつけられた経験

内閣府調査結果（一部抜粋）
20代〜60代までの10,330人を対象に、調査がありました。

【影響】

アンコンシャス・バイアスはそれ自体が悪いわけではなく、例えば転勤⇨男性、と思いきふかべること自体は問題ありません。問題は「女性が転勤？夫や子どもが可哀相」といったアンコンシャス・バイアスに気づかずにとった言動が相手を傷つけたり、自身や相手のキャリア・成長の妨げになってしまふことです。アンコンシャス・バイアスによる悪影響は

✓モチベーション・パフォーマンスの低下

✓疎外感や孤立感の増加

✓マイナス思考やトラウマになる

等があげられ、これらは個人だけでなく学校、会社、地域等、組織へも影響を与えることとなります。

check!

アンコンシャス・バイアス対処法リスト

- 「普通」そうだ、「大抵」そうだと思いますか？
- 相手の表情や態度の変化に注目！何か傷つけるような言動があったかと思ったら違和感をそのままにせずフォローを。
- 決めつけや思い込みに気づいたら、この考えがアンコンシャス・バイアスかも？と疑ってみて。
- 相手を尊重する心の姿勢を持ちましょう。

【解決に向けて】

まずは、あなた自身が「普通はこうだ」「こうあるべきだ」と思っていることに気づくことが重要です。無意識に決めついたり、押し付けたりすると、相手の表情が曇るなど、態度に変化が生じます。そうした「サイン」に気付いたら、アンコンシャス・バイアスによる言動が相手の心を傷つけたかも？と是非、立ち止まってみてください。また、相手の変化だけでなく、自分の中でもこれってアンコンシャス・バイアスかも？と感じたとき、「当たり前」に思っていることが違っているのかもしれない、と考えることが大切です。

誰もが自分らしく生き生きと暮らすためには、自分の考えと相手の考えが必ずしも同じではないことを知り、その違いを認め合うことが大切です。アンコンシャス・バイアスに気づくことは、多様性を認め合う男女共同参画社会の実現に向けての第一歩です。大事な気づきを、大切に育てていきましょう。



Begin編集協力員によるLGBT講演会レポート！

令和3年12月17日、藤沢公民館にて、自身が性別適合手術を受け、戸籍上の性別を女性から男性に変更したトランスジェンダーの井上健斗氏による講演会が開催され、多くの市民が参加されました。

『LGBT当事者が伝える～多様性を認めて誰もが生きやすい社会へ～』をテーマに、マイノリティの体験談、LGBTの基礎知識、対応方法を事例やデータをもとに、具体的にお話しいただきました。

セクシュアリティ(からだの性・こころの性・好きになる性・表現する性)は多様で、自己を確立する大事な要素である。しかし慣習や偏見を恐れる気持ちから本人が公言しづらいため“いない”存在となり自分らしく生きられない。アライ(=支援者)としてできることは、皆が「一人ひとり違う」という前提に立ち、当たり前“いる”存在と認識し認め

運営のお手伝いと聴講もしてきました。



合うことが必要。そして一人ひとりが積極的に、知る・想像する・関わっていく思いやりの心があれば難しいことはないと言われました。その後、参加者からの質問に、心のこもった回答を頂き、あたたかい交流の中で前向きな希望の持てる講演会となりました。

著：編集協力員 板倉



講演会は市公式YouTubeにて配信しています。



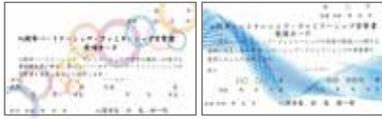
男女共同参画推進センターからのお知らせ

～令和3年度の主な取組～



パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の制定・実施

性的マイノリティのカップルが、生活を共にするパートナーであることを宣誓し、市が宣誓書受領書・受領カードを交付する制度です。併せて、生計が同一の未成年の子等を家族として宣誓することができます（ファミリーシップ宣誓）。2月現在、3組のカップルが宣誓されています！



宣誓された方へは左記の受領カード（デザイン2種類）と受領証明書を交付しています。

ファミリーシップの背景とは

異性婚ののちに同性カップルになった方などには、お子さんがいる方もいらっしゃいます。保育園の迎えにパートナーも行けるようになって欲しいという声があり、ファミリーシップの導入に至りました。



生理用品の無料配布

4月、近隣市のなかでもいち早く、新型コロナウイルスの影響により生活が困窮した女性を対象に生理用品の無料配布を開始し、現在も希望者にお配りしています。



ご希望の方は、左記のカードの提示により声に出さなくても受取り可能です。

【配布窓口】男女共同参画推進センター・生活支援課・こども支援課・健康福祉センター



第5次いるま男女共同参画プランの策定

「たがいの個性や多様性を認めあい、誰もが自分らしく輝く入間」を目指し、令和4年4月～令和9年3月までの5年間の期間とする第5次いるま男女共同参画プランを策定しました。

プランの冊子は男女共同参画推進センターにて配架を予定しています。



各QRコードから詳細をご覧ください。

センター主催講座の実施

新型コロナウイルス感染症への感染対策をとりながら、「魅力アップセミナー」「お仕事応援講座」「就職支援セミナー」を実施し、のべ162人の参加がありました。

～相談事業のご案内～

女性の悩みごと面接相談/オンライン相談(予約制) 毎週月・金曜日

午前10時～正午・午後1時～3時 ※相談時間1人55分
TEL:04-2964-2561(専用)

女性の悩みごと電話相談 水曜日

午前10時～正午・午後1時～3時 ※相談時間1人30分
TEL:04-2964-2545(相談員直通)

女性のための法律相談(オンライン可・予約制) 毎月第3水曜日

午後1時15分～4時45分 ※相談時間1人30分
TEL:04-2964-2561(専用)

性的マイノリティのための悩みごと相談

*専門窓口ではありませんが、相談をお受けします。

毎週月曜日～金曜日(祝日を除く)午前10時～正午・午後1時～3時(1人約30分)
TEL:04-2964-2545



～センターへのアクセス～



編集後記

- ・この度初めて参加させて頂きました。Beginを通して、一人一人の小さな気づきが大きな一歩になると感じました。ありがとうございました。(板倉)
- ・変わってしまった日常。Begin編集会議も一回一回がとても貴重な機会となりました。毎日を大切に、できることから…そう思っています。(原田)
- ・コロナ以前の生活には戻れない…と実感した一年でした。ダイバーシティの考え方を進めることが重要になってくる気がしています。(宮崎)
- ・新型コロナウイルス感染症の為、今迄に考えたことのない男女共同参画ということを改めて考えなおした一年でした。早くコロナが終息する事だけが願いです。(諸井)

わたしたちが編集協力員です

諸井和江 宮崎房枝 原田寛子 板倉珠青

発行元

企画・編集

女と男の情報紙編集会議

入間市市民生活部人権推進課 [男女共同参画推進センター]
〒358-0003 入間市豊岡4-2-2 TEL 04-2964-2536 FAX 04-2964-2539

メールアドレス ir212000@city.iruma.lg.jp

ホームページアドレス http://www.city.iruma.saitama.jp/shisetsu/shisetsu_kyoiku/1012387/index.html

※入間市女と男の情報紙「Beginはじめよう!」は第4次いるま男女共同参画プランに基づいて発行されています。



発行日

令和4年3月

イラスト

原田寛子

